

輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

WTSA (Westbound Transpacific Stabilization Agreement) 加盟の船会社が1月1日に延期していたGRI (General Rate Increase: 基礎レート) の値上げは、一部船会社により実施されました。PSW出しを中心に値上げを見送った船会社・航路は、12月1日に実施、再度延期、取消し等々、対応が様々です。

PNW出しを中心に船積みスペースのタイト感は引続き顕著で、加えて空コンテナの不足も重なり、船積みの遅延は深刻な状態となっています。年末にかけて貨物が増えていることもあり、すぐに解消される見込みは薄いなかで、11月下旬にワシントン州では例年より早く寒波に見舞われ、路面凍結や通行止め、また一部サプライヤーではプレスマシン凍結の影響により、シアトル港への搬入遅れも発生しています。引続き注意が必要です。

Denny Creek on I-90 @ MP46.8 WSDOT



Sun Nov 28, 2010 9:41 AM PST

Top of Easton Hill on I-90 @ MP67.4 WSDOT



Sun Nov 28, 2010 6:55 AM PST

ワシントン州 エレンズバーグーシアトルを結ぶ国道90号線の積雪風景 11/28に撮影

来年1-3月分のBAF (Bunker Adjustment Factor 燃料費調整係数: 燃料価格変動に対して調整される割増運賃) は、\$22値上げで決定しています。今後も海上運賃の値上げ傾向は続くことが予想されています。

ビートバルブ

<米国産>

主産地では10年産の収穫が終了しています。09年産は降雨続きと寒波到来が早く予想よりも収量が多くなかったため、10年産はその反動でビートパルプの生産量は前年対比で7%程度の増加と見込まれています。

トウモロコシなどの穀物相場の上昇から、ビートパルプの国内酪農家向けの引合いも徐々に強くなっているようです。そのため、前年対比で生産量の増加が見込まれている米国産についても、産地価格は強含みで推移している模様です。

9月号でご案内の通り、GMO種子の取扱いについて、8月13日に連邦地裁で、10年産のビート大根は今後新たなGMO種子の作付けを禁止するが、既に作付けされた10年産についてはその収穫、製品の販売を妨げるものではない、という判断が下されました。今年は8月以降に作付けをするビート大根は無いに等しいため、10年産ビートパルプについては08-09年産と同様にGMO種が流通することになりますが、11年産以降についてはGMO種子の作付けが認められるか不透明となっています。先日USDA（United States Department of Agriculture：米国農務省）は、30日間の公聴会による聴取期間を経て、問題がなければ来春のGMO種子の作付けを求めるとするガイドラインを提案しました。しかしながら、USDAのガイドラインが有効となれば、すぐに環境保護団体側が再度本件を提訴してガイドラインの取消しを求めると推測されます。その公聴会も2-3月にずれ込むと予想されており、一方で11年産のビート大根は早い地域では3月から作付けが始まるため、どのように進展するか引続き注意が必要です。

<中国産>

10年産のビートパルプの生産量は増加する見込みですが、国内需要の増加を背景に輸出余力はむしろ低下するとも考えられています。中国ではあらゆる製品のインフレが社会問題化しており、トウモロコシ、綿実などの飼料の国内価格も上昇しているようです。輸出向けビートパルプの価格も、今後はさらに強含みで推移すると予想されています。

アルファルファヘイ

<ワシントン産>

コロンビアベースンでは収穫時期に断続的に降雨が続いたため、1番刈は約9割が雨あたり品、という最悪な結果に終わりました。全般的な収穫の遅れから、4番刈を行う圃場も少ない上に単収も少なく、輸出向けに適した品質のアルファルファは無いに等しい状況です。各サプライヤーとも、プレミアム品を中心にほぼ売切れ（成約済み）となっているようです。

1番刈が壊滅的な被害を受け、また2番刈以降のプレミアム品の供給量もタイト

化しているため、年明け以降も産地価格の大幅な値上げが予想されています。

産地では、穀物相場の高騰からトウモロコシ（一部小麦）への転作が増えてきています。現在すでに来年のために、アルファルファの圃場の転作の準備を始めている生産農家も多く見られます。そのため、11年産のアルファルファの作付面積は大きく減少すると予想されています。加えて、10年産の数量も少ないことから、11年産のアルファルファの価格は開始と同時に強含みで推移することが、早くも予想されています。

<オレゴン産>

クラマスフォールズ、クリスマスバレーともに、収穫が終了しました。産地在庫は、ほぼ売切れ（成約済み）となっているようです。1番刈は、例年より雑草混入の割合が多く、2番刈以降も雨あたり被害が発生し単収も少ないため、オレゴン産全体の良品の生産量は少ないと予想されています。また、ワシントン州の1番刈が壊滅的に被害を受けていることから、引合いが非常に強く、産地価格は強含みで推移しています。

<ネバタ産>

ネバタ州でも収穫が終了し、産地在庫はほぼ売切れ（成約済み）となっているようです。この地域でも生産量減の影響で供給量が少ない中、引合いも徐々に強くなっていることから、産地価格は強含みで推移しています。

<カリフォルニア産>

カリフォルニア州でも、収穫が終了しました。インペリアルバレー産は、UAEや中国向けの荷動きは引続き順調ですが、7-8番刈の収穫時に降雨に見舞われたため、輸出向けがタイト化している模様です。

穀物相場の高騰から、ワシントン州と同様に、北カリフォルニアではトウモロコシや小麦、インペリアルバレーでは小麦への転作が増えて、11年産のアルファルファの作付面積が大きく減少する懸念があると言われる一方で、UAEや中国向けの引合いが堅調に推移しているため、むしろ作付面積が増加するとも言われています。米国内酪農家や、UAE、中国向けとの需給バランスもアルファルファ全体の産地価格に影響するので、今後の動向に注意が必要です。

チモシー

<米国産>

産地では早い段階でハイグレード品を中心に売切れ（成約済み）となっています。

日本からの引合いは引続き強く、カナダ産の情勢も受けて、各サプライヤーへの問合せも多いものの、売れる物がほとんどない状況です。

10月中旬の出荷から屋内くん蒸費用が発生しているにもかかわらず、船積みスペースの問題とも重なりタイト化が続いています。これを受けて、年明け以降も産地価格の大幅な値上げが予想されています。

酪農用、馬用ともに、順調な需要と船積みを受けて、チモシーは生産コストに対して高く売れており、他の農産物より生産農家が“儲かる”満足できる価格で推移しています。穀類相場が高騰していても、11年産のチモシー作付面積についてはさらに増加することが早くも予想されています。

<カナダ産>

レスブリッジ（南アルバータ）では、2番刈の収穫が終了しました。1番刈は降雨の影響もあり、中間グレード品が約60%の割合で発生し、プレミアム品以上が5%程度と非常に限定的となっています。収穫時期の不安定な天候により、国内向けのロールバールに生産を移行させた生産農家が多いため、輸出向けの生産量は予想よりかなり少ない模様です。

ドライランド（中央アルバータ）では、1番刈の収穫がほぼ終了しています。中間グレード品が約65%、プレミアム品以上が20%程度の割合で発生しています。

カナダ産チモシーは、総じて日本からの引合いは強いものの、単収減による過去15年で最低レベルの生産量のため、需給バランスが崩れている状況です。わずかなプレミアム品をめぐって買付け競争が激化し、結果として産地価格は高く推移しています。

スーダングラス

<インペリアルバレー産>

10年産のスーダングラス作付面積については、6/15時点の53,047エーカーをピークにその後減少しています。産地では早い段階でハイグレード品が売切れ（成約済み）となりましたが、チモシーや豪州産オーツヘイの状況も受けて中間グレード品以下も売れ始めたため、大手サプライヤーではほぼ全てのグレードで売切れとなっているようです。

色抜け品や茎細品への引合いが強いため、作付面積のピークが31,963エーカーだった09年産より生産量は多いにもかかわらず、スーダングラス全体の産地価格は高く推移しています。

産地では穀物相場の高騰から、来春の小麦の作付けが増えることも予想されています。スーダングラスから小麦への転作が多くなる場合は、早播きスーダングラス

＝ハイグレード品の供給数量が減少し、価格は強含みに推移する傾向が例年見られます。11年産はどのようになるか、今後の産地の動きに注意が必要です。

＜北カリフォルニア産＞

想像以上に冷涼な気候が続き収穫が非常に遅れたため、ほとんどの圃場は1番刈で終了しました。この地区では作付面積が昨年より増えたものの、天候が悪く単収が減ったため、生産量は若干の増加で落ち着いていると予想されています。生産量が増えたものの、インペリアルバレーと同様に買付競争が激化したため、産地価格は高く推移しています。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

インペリアルバレーでは、5番刈まで収穫が終了しました。1番刈は春先の冷涼な気候により雑草が多く、2番刈以降は例年より多湿な気候の影響で、色あせ（ブリーチ）が多く茎も少し硬めの品質傾向で、10年産のクレイングラスは09年産に比べると品質で劣る結果となりました。10年産の生産量についても、作付面積の減少と春先からシーズンを通しての低温傾向による単収減で、09年産に比べて大きな減産が見込まれています。11月以降は韓国からの引合いも強く、そのため産地価格は強含みで推移しています。

産地価格は上がっても、生産コストに対して未だに高く売れておらず、他の農産物より生産農家が“儲からない”満足できない価格で推移していることから、11年産のクレイングラス作付面積についてはさらに減少する懸念があります。

ストロー類

フェスキュー、ライグラスともにストローの収穫が終了しています。ともに作付面積は前年対比20－30%減で繰越在庫もほとんどなく、一部で価格上昇を見越して手元に残している生産農家もいるようですが、供給数量の不足が懸念されています。産地価格は今後横ばいか値上げで推移すると予想されています。

種子価格の低迷のため年々作付面積が減少していますが、穀物相場の高騰からトウモロコシや小麦への転作が増えて、11年産はさらにストロー類の生産量が減少する懸念があります。

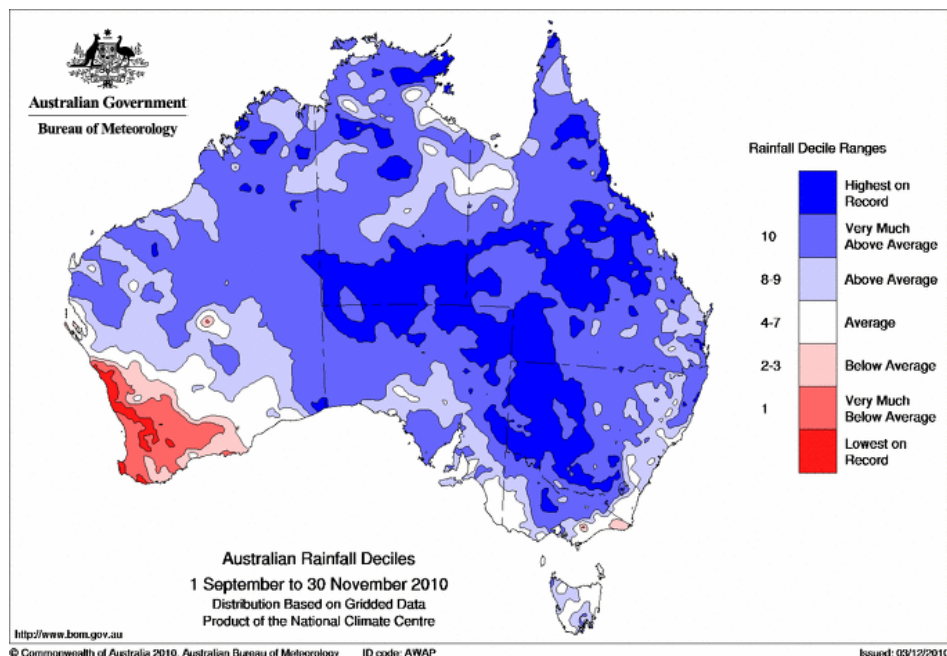
豪州産オーツヘイ

＜西豪州＞

収穫が終了しました。早魃の影響で降雨量が少なかったため、西豪州全体の輸出向け生産量は例年の半分以下の120,000トン前後まで減少すると一部で予想

されています。また、国内向けの引合いも強まってきているため、輸出向け生産量はさらに減少することも予想されています。品質についてはハイグレード品が多く発生しており、逆にローグレード品は極端に少ない傾向にあります。

単収が少ないために破産する生産農家も出てくる見込みで、生産農家は生残りをかけて大幅な値上げを要求しているため、また買付け競争の激化も手伝って、11年産の産地価格は、輸出を始めて以来の「史上最高値」で推移しています。



豪州 2010/9/1-11/30を対象に平均降雨量と比較した図

西豪州主産地の降雨量は、観測史上最も少ないかあるいは平均よりとても少なく、赤く染められている。

(南豪州および東豪州主産地の降雨量は、観測史上最も多いかあるいは平均より多く、青く染められている。)

<南豪州>

収穫がほぼ終了しています。豪州各産地のなかで生育状況は最も良好でしたが、10月末から現在まで断続的に降雨が続いているため、雨あたり被害や、刈取りを延期した圃場の刈遅れ品が多く発生しています。中間グレード品での収穫が見込まれていても、雨あたり被害がひどくローグレード品か輸出向けには不向きな品質となってしまったものも多く発生しています。そのため、南豪州全体の輸出向け生産量は例年並みの約250,000トンと予想されていますが、200,000トン前後まで減少するとも一部では予想されています。

10年産は中間グレード品以下の発生量が多く、例年であれば産地価格の軟化が期待されますが、西豪州での不足から引合いが南豪州に流れてきているため、産地価格も上がり始めているようです。また、アジア地域からの輸入貨物の減少から、アデレード港出しの船積みスペースのタイト感が顕著で、船積みの遅延は深刻な状態となっています。すぐに解消される見込みは薄く、むしろ恒常化しているため、

南豪州では海上運賃の値上げと不安定なデリバリーが今後も懸念されます。



南豪州 サプライヤー 季節外れの大雨 12/7撮影

<東豪州（ヴィクトリア州）>

収穫がほぼ終了しています。南豪州と同様に、10月末から現在まで断続的に降雨が続いているため、ほとんどの圃場で深刻な雨あたり被害を受けています。輸出向けはおろか、国内向けにも売れないような品質となってしまったものも多く発生しています。また、ベ어링自体を諦めた圃場も多く発生しています。そのため、東豪州全体の輸出余力は、例年の3-5割程度にまで落ち込むと一部で予想されています。



東豪州 刈取り後に雨あたり被害を受けてベ어링を諦めたオーツハイ圃場 12/6撮影

以 上